教育実践研究

大学生の規範意識

── 青少年育成の観点から ──

黒澤　岳博[1]・井上　和久[2]・平野　裕子[3]
山本　英子[4]・新井　　恵[5]

要　　旨

社会におけるモラルの低下，規範意識の低下が叫ばれて久しいが，本稿では，規範意識（多くの者によって共有されている価値基準）の逸脱があるかどうかについて城西大学経営学部の学生を対象に実態調査し，得られた結果から知識・技術以外の教育を行う必要性を明確にするために検討したので報告する。本調査の結果では，学生の回答の結果について規範意識に関する問題のある傾向はうかがえなかった。むしろ，主な項目についていずれも規範意識としては好ましい傾向を示している。また，今回の規範意識の調査結果から，大学生を含めた青少年育成全般に必要な知識・技術などの情報に加え，規範意識に関して，定期的に調査を行う意義があると感じられた。

キーワード：モラル，いじめ，規範意識

1　はじめに[6]

いじめによる自殺，会社でのパワーハラスメント，就職活動でのセクシャルハラスメント，大学内でのアカデミックハラスメントなどに注目が集まっているが，それらはモラルの低下・規範意識の低下による可能性が高い。埼玉県でも，平成 25 年 10 月 24 日に開催された「埼玉県いじめ問題対策会議」に先立って上田知事が行動宣言を行う[7] など，いじめへの対応に関する意識の高まりを感じさせる。

個々人の規範意識は，社会変動による社会的要因と個人の認知発達による心理的要因により異なるものとなる。我々はあらゆる規範や社会的ルールを個人の自由だと判断しているのではなく，

行為自体に善悪の規定がある「道徳領域（モラル）」や文化的な一様性を持つ「慣習領域（ルール・マナー）」を個人の自由と区別しており，加齢・経験に伴い，自己の決定の判断を発達させていくと示されている[8]。

規範意識とは「家族や学校，社会における対人関係において，多くの者によって共有されている伝統・慣習的な言動についての基準や習慣等に関する意識」と定義されている[9]。これまで，規範意識についての実態調査は，全国各地の小・中・高校などで実施されている[10]。また，大学生に対する規範意識の調査結果について，国立と私立との比較で国立の方が私立に比べ規範意識が低いという報告や男女間の規範意識の違い，授業中の私語などの報告がある[11]。また，医療職における縦断的な報告では，近年先輩・後輩関係の希薄化および教員との関係が親密になっていたという報告もある。小・中・高校までは校則が厳しかったが，大学に入学してからの自由な環境などから規範意識の変容が生じていると考えられる。

本稿では，このような現状をふまえ，規範意識（多くの者によって共有されている価値基準）の逸脱があるかどうかについて城西大学経営学部の学生を対象に実態調査し，得られた結果から知識・技術以外の教育を行う必要性について明確にするために検討したので報告する。本調査における規範意識逸脱の有無について，大半の回答が良いものに対し，反対に悪いものに回答（一般的に社会通念上から外れている）があるものとした。

なお，規範意識に関する項目について久世ら[12]の調査報告を参考に本研究者間で検討し項目を抽出した。さらに抽出した項目の関連性を検討し 5 つのカテゴリー（大学生活，慣習，家庭生活，法律，その他）に分類した。

2　対象および方法

本調査は，筆者所属の城西大学経営学部「社会におけるコミュニケーションⅡ」の講義に参加した学生 21 名を対象として質問紙（留置調査法）により平成 25 年 11 月上旬に実施した。

調査内容は，基本属性（9 項目：性別，年齢，所属学科，学年，同居家族，アルバイト経験，課外活動，飲酒，喫煙，表 1）と規範意識に関する 5 つのカテゴリー（大学生活 40 項目，慣習 22 項目，家庭生活 16 項目，法律 17 項目，その他 1 項目の計 96 問，表 2・表 3・表 4）で，回答方法として，基本属性については該当箇所を記入および内容について記載，規範意識については，その項目に自分自身体験がある場合に記入，他の人の行動についてどのように思うかについて，「とてもそう思う」「ややそう思う」「どちらともいえない」「ややそう思わない」「とてもそう思わない」の 5 件法で求めた。回答結果について，規範意識逸脱の有無は，大半の回答が良いものに対し，反対に悪いものに回答があるものを逸脱とした。なお，回答結果をもとに有効回答数を

回収率（有効回答数 21 名／提出者 21 名×100）として求め，各項目を単純集計による分析を行った。本研究における有効回答数とは，回収した回答から集計に不適正な無効回答を除いた有効回答の合計数として扱った。そして，この有効回答数を回収率として扱った。

表 1　基本属性について

1. 女性・男性	2. 年齢（20 歳未満・20〜24 歳・25〜29 歳・30 歳以上）			
3. 所属学科・専攻	4. 学年（1 年生・2 年生・3 年生・4 年生）			
5. 同居家族（一人暮らし・両親と同居・祖父母と同居・兄弟と同居・姉妹と同居）				
6. アルバイト経験（無・有）	7. 課外活動（無・有）	8. 飲酒（無・有）	9. 喫煙（無・有）	

表 2　大学生活について

1 友人にあいさつをする	2 教職員にあいさつをする
3 授業を遅刻・早退する（体調不良時を除く）	4 授業を欠席する（体調不良時を除く）
5 授業で使用する教科書を持ってくる	6 授業中に私語をする
7 授業中にメールをする	8 授業中にメイクをしたり髪形を直したりする
9 予習・復習をする	10 授業に興味を持って臨む
11 授業にあまり集中できない	12 グループワークに参加する
13 提出物（レポート等）を期限内に提出する	14 テストでカンニングをする
15 演習時に決められた服装・身だしなみで参加する	16 教室にゴミを捨てる
17 廊下のごみを見つけたら拾ってゴミ箱に捨てる	18 机などに落書きをする
19 飲食禁止の教室・実習室などで飲食する	20 授業で質問を積極的にする
21 自分のロッカーに鍵をかける	22 自転車は自転車置き場に止める
23 バイク置き場に自転車を止める	24 体育館に入る際は上履きに履き替える
25 自家用自動車で通う	26 自家用自動車を構内もしくは大学周辺道路に路上駐車する
27 学内パソコン使用時，飲料水を机上に置く	28 部室の合鍵をつくる
29 健康上問題ないのにエレベーターを使用する	30 エレベーターは使用せず階段を使用する
31 校則は学生便覧を熟読する	32 学内で友達の悪口を言う
33 学内で先生の悪口を言う	34 学校行事に参加する
35 学校行事に興味がない	36 自治会活動に興味がある
37 いじめをする	38 いじめをされる
39 大学所有の物品を盗む	40 教職員からの注意はあまり気にしない

表 3　慣習について

1 電車やバスなどの優先席付近で携帯電話での通話をする	2 電車やバスなどの優先席で，高齢者，障がい者，妊婦，乳幼児連れの人に席を譲る
3 電車やバスなど公共の場で飲食をする	4 電車やバスなど公共の場で化粧をする
5 禁煙の場所で，喫煙をする	6 禁煙区域以外での喫煙をする
7 歩き煙草を注意する	8 禁煙区域で喫煙している人に注意をする
9 インターネット上でプロフィールを公開する	10 インターネット上で他人を中傷する書き込みをする
11 出会い系サイトに登録する	12 出会い系サイトで知り合い実際会う
13 隣近所の人にあいさつをする	14 約束の時間を守る
15 道路にゴミを捨てる	16 行列に割り込みをする
17 夜遊びをする	18 深夜番組をよくみる
19 翌日の朝まで遊ぶ	20 借りた物は必ず返却する
21 よく物を借りる	22 マナーやモラルに配慮する

表 4　家庭生活・法律・その他について

●家庭生活について

1 あいさつをする
2 家庭のルールを守る
3 家の手伝いをする
4 手洗い・うがいをかかさない
5 一日 3 食ご飯を食べる
6 食事内容（バランス，量）に気をつけている
7 家族を大切にする（思う）
8 自分の部屋の片づけは自分でする
9 身体を動かすよう心がけている
10 門限を守る
11 親を無視する
12 理由を偽って親からお金をもらう
13 無断で親のお金を持ち出す
14 家出をする
15 親との約束を破る（暴言を吐く）
16 家族に暴力をふるう

●法律について

1 徒歩で信号を無視する
2 自転車で信号を無視する
3 原付バイク（二輪自動車）で信号無視をする
4 自動車で信号無視をする
5 自転車で道路の右側を走る
6 自転車で 2 人乗りをする
7 自転車で並走する
8 傘をさして自転車に乗る
9 自転車で歩道を走行する
10 携帯電話を使用しながら自転車に乗る
11 携帯電話を使用しながら車の運転をする
12 人家や商店の壁に落書きをする
13 未成年者（20 歳未満）が飲酒をする
14 未成年者（20 歳未満）が喫煙をする
15 道路でポイ捨てをする
16 人の物を盗む（自転車・教科書等）
17 万引きをする

●その他

1 マナーやモラルは自分一人くらい守らなくてもいいと思う

3　結　　果

有効回答数は 21 名で回収率 100％であった。基本属性の回答（表 5）として，回答者の内訳は女性 2 名（9.5％），男性 19 名（90.5％）で，飲酒・喫煙に関する回答は，飲酒 10 名（うち未成年者 6 名），喫煙 0 名であった。

表 5　基本属性のアンケート結果（$n = 21$）

1. 女性：2 名　男性：19 名　　2. 年齢（20 歳未満：14 名　20〜24 歳：7 名　25 歳以上：0 名）
3. 所属学科・専攻：経営学部 21 名　　4. 学年(1 年生：11 名　2 年生：8 名　3 年生：1 名　4 年生：1 名)
5. 同居家族（一人暮らし：8 名　両親と同居：11 名　祖父母と同居：2 名　兄弟と同居：0 名　姉妹と同居：0 名）
6. アルバイト経験（無：8 名　有：13 名）　　7. 課外活動（無：14 名　有：7 名）
8. 飲酒（無：11 名　有：10 名，内 20 歳未満 6 名）　　9. 喫煙（無：21 名　有：0 名）

「大学生活」の回答結果は，「1 友人にあいさつをする」「5 授業で使用する教科書を持ってくる」「13 提出物（レポート等）を期限内に提出する」「22 自転車は自転車置き場に止める」の項

目に関して，「とてもそう思う」「ややそう思う」が 8 割を占めた。

また「14 テストでカンニングをする」「16 教室にゴミを捨てる」「31 校則は学生便覧を熟読する」「38 いじめをされる」「39 大学所有の物品を盗む」の項目に関して「ややそう思わない」「とてもそう思わない」が 8 割以上を占めた。特に，「14 テストでカンニングをする」「16 教室にゴミを捨てる」「39 大学所有の物品を盗む」の 3 項目については「とてもそう思わない」と考える学生だけで 8 割を占めていることから，強い規範意識が見て取れる。

「法律について」の回答結果は，「3 原付バイク（二輪自動車）で信号無視をする」「4 自動車で信号無視をする」「10 携帯電話を使用しながら自転車に乗る」「12 人家や商店の壁に落書きをする」「14 未成年者（20 歳未満）が喫煙をする」「15 道路でポイ捨てをする」「16 人の物を盗む（自転車・教科書等）」「17 万引きをする」の項目に関して，「とてもそう思わない」「ややそう思わない」が 8 割以上を占めた。特に「4 自動車で信号無視をする」「12 人家や商店の壁に落書きをする」「14 未成年者（20 歳未満）が喫煙をする」「16 人の物を盗む（自転車・教科書等）」「17 万引きをする」の 5 項目については「とてもそう思わない」と考える学生だけで 8 割を占めている。また，法律に関しては，違法な行為を認める回答はなかった。

「慣習について」の回答では，「4 電車やバスなど公共の場で化粧をする」「5 禁煙の場所で，喫煙をする」「10 インターネット上で他人を中傷する書き込みをする」「11 出会い系サイトに登録する」「12 出会い系サイトで知り合い実際会う」「15 道路にゴミを捨てる」「16 行列に割り込みをする」の項目に関して，「とてもそう思う」「ややそう思う」が 8 割を占めた。特に「11 出会い系サイトに登録する」「12 出会い系サイトで知り合い実際会う」「16 行列に割り込みをする」の 3 項目については「とてもそう思わない」と考える学生だけで 8 割を占めている。

また，「14 約束の時間を守る」「20 借りた物は必ず返却する」の項目に関して，「とてもそう思う」「ややそう思う」が 8 割を占めた。

「家庭生活について」の回答結果は，「7 家族を大切にする（思う）」「8 自分の部屋の片づけは自分でする」の項目に関して，「とてもそう思う」「ややそう思う」が 8 割を占めた。

また，「13 無断で親のお金を持ち出す」「14 家出をする」「16 家族に暴力をふるう」の項目に関して，「とてもそう思わない」「ややそう思わない」が 8 割以上を占めた。特に「14 家出をする」「16 家族に暴力をふるう」の 2 項目については「とてもそう思わない」と考える学生だけで 8 割を占めている。

4 考　察

本調査の結果では，学生の回答の結果について規範意識に関する問題のある傾向はうかがえな

かった。むしろ，大学生活に関する「14 テストでカンニングをする」「16 教室にゴミを捨てる」「39 大学所有の物品を盗む」の項目，法律に関する「4 自動車で信号無視をする」「12 人家や商店の壁に落書きをする」「14 未成年者（20 歳未満）が喫煙をする」「16 人の物を盗む（自転車・教科書等)」「17 万引きをする」の項目，慣習に関する「11 出会い系サイトに登録する」「12 出会い系サイトで知り合い実際会う」「16 行列に割り込みをする」の項目，家庭生活に関する「14 家出をする」「16 家族に暴力をふるう」の項目は，「とてもそう思う」または「とてもそう思わない」が 8 割を占めており，いずれも規範意識としては好ましい傾向を示している。

たしかに各個人の回答を見ると，基本属性における「未成年の飲酒」や，「人の物を盗む」に対する「とてもそう思う」の回答なども散見されるが，全体としての傾向ではないので，各個人に対する教育の指標として活用可能な部分であると考えられる。

また，「慣習について」の回答のうち，「10 インターネット上で他人を中傷する書き込みをする」「11 出会い系サイトに登録する」「12 出会い系サイトで知り合い実際会う」の項目に関して，「とてもそう思う」「ややそう思う」が 8 割を占めており，大学生年代は，いわゆる「ICT（情報通信技術)」における規範意識を強く感じていることがうかがえる。特に「11 出会い系サイトに登録する」「12 出会い系サイトで知り合い実際会う」の 2 項目については「とてもそう思わない」と考える学生だけで 8 割を占めていることから，出会い系サイトなど ICT に関する問題を解決することに必要性を感じているように思われる。

「社会におけるコミュニケーション」という講義では，あいさつに関する必要性とその効果を当初から説明している。あいさつを行うためにはあいさつをする相手の存在を認め，その相手と「コミュニケーションを取りたい」という意思表示を，自ら積極的に行えることであり，自らの行動のみならず，相手に対する評価も同時に行っていると解説をしている。このため「1 友人にあいさつをする」に対する意識が強いことは教育の効果を感じられた。

5　結　　論

今回の規範意識の調査結果から，大学生を含めた青少年育成全般に必要な知識・技術などの情報に加え，規範意識に関する調査に意義があると感じられた。講義というチャンスの中で，学生とコミュニケーションをとっていくことは，各個人が規範意識について考えることにつながると思われた。

本稿では一講義の参加者のみの結果となっているが，共同研究では調査項目を統一し，他の大学の結果も出ているので，今後比較することが可能であると思われるため，検討していきたい。また，今回の調査結果について回答件数が少なく詳しい分析が出来ていないため，今後さらに項

目毎の関連性や分析を行っていきたい。

〈注〉

（1） 城西大学経営学部
（2） 埼玉県立大学保健医療福祉学部理学療法学科
（3） 埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科
（4） 埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科
（5） 埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科
（6） 黒澤は城西大学経営学部の「社会におけるコミュニケーションⅡ」の講義を担当しており，本稿のデータはその講義に参加する学生の協力による。
（7）「いじめ」に関する埼玉県の取組　http://www.pref.saitama.lg.jp/site/ijimebokumetu/
（8） 藤澤（2009）
（9） 牧ら（2010）
（10） 廣岡ら（2006），上原ら（2008）
（11） 久世ら（1988），牧ら（2010），中村ら（2008），出口ら（2005），水野ら（2009）など
（12） 久世ら（1988）

参考文献

1. 廣岡秀一，横矢祥代：小学生・中学生・高校生の規範意識と関連する要因の分析．三重大学教育学部研究紀要，2006; 57: 111-120.
2. 上原千恵，野津有司，他：高校生における危険行動に関わる規範意識尺度の信頼性と妥当性の検討．学校保健研究，2008; 50: 159-165.
3. 藤澤　文：青少年をめぐる諸問題（調査資料）── 規範意識はなぜ変容するのか？．国立国会図書館調査及び立法考査局，東京，2009, pp. 221-236.
4. 久世敏雄，和田　実，他：現代青年の規範意識と私生活主義について．名古屋大学教育学部紀要，1988; 35: 21-28.
5. 牧　亮太，宮木景子，他：大学生の約束意識と規範的態度．広島大学心理学研究，2010; 10: 81-88.
6. 中村慎佑，西迫成一郎，他：社会的規範からの逸脱行動の様相と類型：社会的規範の普遍性と可変性に関する研究（1）．関西大学総合情報学部紀要「情報研究」，2008; 29: 55-68.
7. 出口拓彦，吉田俊和：大学の授業における私語の頻度と規範意識・個人特性との関連：大学生活への適応という観点からの検討．社会心理学研究，2005; 21: 160-169.
8. 水野里恵，山形恭子：脱慣習水準のモラル思考法の発達に「教育」が及ぼす影響：DIT-2（Defining Issues Test 2）測定による青年のモラル判断基準に関する研究．中京大学心理学研究科・心理学部紀要，2009; 9: 1-7.
9. 山岸明子：現代青年の規範意識の稀薄性の発達的意味．順天堂医療短期大学紀要，2002; 13: 49-58.
10. 伊関友伸：フレッシュマンゼミにおけるコミュニケーション能力開発手法の可能性.城西大学経営紀要，2002: 2 pp. 15-41.

Normative Consciousness of College Students:
From the Point of View of Youth Development

Takehiro Kurosawa, Kazuhisa Inoue, Yuko Hirano,
Eiko Yamamoto and Megumi Arai

Abstract

It has been advocated the Lowering of moral and the reduction of normative consciousness in society.

In this paper, we investigated the deviation of normative consciousness for students of Josai University, Faculty of Business Administration. From the results, we wanted to clarify the need of the education of normative consciousness which is the education of non-knowledge and non-technology.

The results of this study, we cannot find out a tendency that has a problem about the results of student answers. Rather than that, some of the main items shows a preferred trend as both normative consciousness.

And from the survey results, we felt that there should be significance for a regular basis investigation of normative consciousness, in addition to information such as knowledge and technology for youth development, including college students.